

『佐賀城址』

佐賀城址は、佐賀港近くの城山頂上にあり、旧佐賀町では最大規模の城跡で、山下一円を眺望することができます。

開墾されて不明瞭ではありませんが、詰、二の段、三の段、四の段、五の段、堀切一条、豎堀二条が残存しています。

※昭和48(1973)年、佐賀町文化財に指定。



佐賀城址

■佐賀城の歴史

佐賀城は、伊与木城築城後、佐賀安森山上に新築されたもので、その年号は明らかではありません。

始めは伊与木城主が佐賀城を監督していたという古老の言い伝えがあります。また、土佐国古城略史にも、「佐賀城市街の東海岸に在り、城主光富権之介、采邑五百石、按ずるに或る書に旧伊与木弥平次之に居れりと言う、天正年間栗本城陥り、一条家亡ぶるに及んで元親に降る。元親権之介に佐賀城を与う」とあり、伊与木城主が佐賀城主を兼ねていたことは事実と思われる。

■佐賀城主(光富家)

佐賀城主は、天正3(1575)年、幡多郡の諸将がことごとく元親に下り、山城城主であった権之介が佐賀城主となつてからは、権之介の父次郎兵衛も佐賀に住み、天正地検帳によれば、土地5町5反を給されていた、という記録から、天正年間の早い時期から、慶長6(1601)年山内家に城を明け渡すまでの間、城主として在籍していたものと思われます。



城山から横浜方面を望む

■光富家

城主・光富家は、長宗我部家から分かれたものです。長宗我部の本姓は奏はたといひ、約1600余年前、奏の始皇帝6代の孫功満王こうまんおうが来朝し、仲哀天皇から奏姓をいただいたことに始まっています。

それから15代奏河勝はたのかわかつは聖徳太子を助けて成功し、河勝から25代新中納言信濃守能俊が土佐国司となり、任期満了後も土佐にとどまり、長岡長宗我部郷(現)を領地として所有したのが、長宗我部の始めといわれています。

能俊から13代兼綱の弟・能忠が光富姓を名乗ったのが、光富の始祖です。

土佐国古城略史によると、佐賀城主・光富権之介は豪勇の士でありました。

天正14年九州戸次川の戦いでは大功を立てましたが、身体には重傷を負いました。

その後も、豊臣秀吉の朝鮮との戦い(文禄の役)には元親軍に加わり、伊与木弥平次、坂本六兵衛らと共に朝鮮に出陣し、各地に転戦して功を立て、ことに瀝川城攻撃せいせんには抜群の功を立て、元親に軍中第一の功績と激賞されました。

しかし権之介はこの戦いで重傷を負い、元親の命によって内地帰還の途中、朝鮮忠徳島で死亡しました。

権之介戦死後は、その子・弥吉郎が佐賀城主となりました。

なお、光富家は歴代ほとんどが権之介を襲名しました。

○お問い合わせ

教育委員会文化振興係
(大方あかつき館内)

☎ 43-2110(直通)